

平成25年度 第1回児童福祉専門分科会 議事要旨

日 時	平成25年5月24日(金) 15:50~17:00
場 所	総合庁舎7階 会議室
出席者	(委 員)中川千恵美、岡修一郎、奥山知也、小野剛、勝山真介、 辻本謙嗣、藤並マサ子  (事務局)子どもすこやか部 田村 子ども家庭室 奥野 子ども家庭課 川西、高木 子育て支援課 栗橋 子ども見守り課 西島 保育室 寺岡 保育課 関谷
議 題	1. 子ども・子育て支援新制度に関する動向について 2. その他
議事内容	(開会) 事務局 ・子ども・子育て支援新制度に関する動向について説明 委員 ・児童福祉専門分科会と子ども・子育て会議の関係性について 事務局 ・児童福祉専門分科会は児童福祉法をベースに児童福祉全般を議論するが、子ども・子育て会議は小学生以下が対象となる。子ども・子育て会議で検討したことは随時、児童福祉専門分科会で報告していく。 委員 ・子ども・子育て会議で議論された結論よりも児童福祉専門分科会の意見が充実した内容となる場合はどうなるのか。 事務局 ・今まで児童福祉専門分科会で培っていただいた実績があるので、生かしていきたいと思う。一方今回、改めて小学生以下にスポットを当てて子ども・子育ての新制度について子ども・子育て会議をするというもの。双方の意見を賜りながら市としての施策を遂行していきたいと考えているので、協力をお願いしたい。 委員

・平成27年度にスタートする子ども・子育て支援新制度ですが、横浜方式を各市町村にという話もあるなか、前倒しで待機児童解消について議論されることもあるのか。

事務局

・前倒しで検討できる部分については、前倒しで検討し平成25年度、26年度で実現させていきたい。

委員

・子ども・子育て会議の構成メンバー案では保護者の方が多数入っている。それぞれの立場からの意見が出され、児童福祉専門分科会とは相反する結論となる場合が想定される。

事務局

・意見の違いが出た場合、事務局として調整を図ることになる。事務局としては、少なくとも今まで児童福祉専門分科会で議論していただいたライン上で一定の方向性を持っていきたい。今までの議論が突然、180度変わるとは思っていないので、今後も貴重な意見をお願いしたい。

委員

・放課後児童クラブの拡充については、新制度に組み込まれているのか。

事務局

・組み込まれている。誰がするのか、どういう資格を持った人がするのか、どれ程のスペースがいるのかを条例で決めることになり、現在、本市で行っている運営委員会方式を整理していかなくてはならなくなる。

会長

・留守家庭児童についてどの部署が所管しているのか。

事務局

・社会教育部青少年スポーツ室が所管。ただし、放課後学習、学力向上に関することは、学校教育推進室が所管している。

会長

・学童保育と言われる放課後児童健全育成事業については、各地域により成り立ち経過が違い、整理していくことはどの自治体にとっても大きな課題と言われています。

委員

- ・子ども・子育て会議条例案のなかで、庶務は子どもすこやか部がすることになっているが、関係部署とも連携をとり、会議に出てもらう方がいいと思う。

事務局

- ・庁内組織について、そのように準備、調整している。  
(子ども・子育て支援新制度に関する動向について終了)

会長

- ・(児童福祉専門分科会の前に開催された)社会福祉審議会で次世代育成支援行動計画の進捗状況の話があったが、確認したいことがあれば。

委員

- ・母子自立支援の関係で、高等技能訓練促進費の予算が減額されている理由は。

事務局

- ・国で定められる支給期間が3年間から2年間になったため。

委員

- ・新規事業であるブックスタート事業とはどういうものか。

事務局

- ・4か月検診の際に図書館から職員が来て絵本の読み聞かせをするもの。良い制度だと思うので、もっと広がってほしいと思う。

会長

- ・4か月検診で導入されるが、保育園やつどいの広場での読み聞かせ、図書の充実も重要だと思う。

委員

- ・日本は先進国で、制度としても非常に豊かで多くの支援策もあるが、そんなに多くの支援策がなく、多くの子供を養うことに幸せを感じている国もある。色々な事業も立ち上げないといけないのかもしれないが、本当によく考えてしないと難しい問題だと思う。

委員

- ・ 実際お母さん方は働き方を考えて保育所に預けつつ子供とのコミュニケーションをとれる時間も作りたいというのが本音で、毎日の生活の中に仕事に追われて子供を預けなければならないというなかに、本来求めている子供との家族としての豊かさが削られている。その部分を会議で考えていければと思う。

会長

- ・ 育休3年とはいかないにしても、子育てに専従するというのも有りという選択肢があるなか、難しい経済状況もあってか、なかなかそうはならず、働きながらも頑張る、ということに重点がシフトされているように感じる。働くにしても在宅にしても、そのもののよさが見直されることがあればと思う。

( 閉会 )